

事業所名	放課後等デイサービスcolor樋井川教室				公表日	令和8年 2月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		個別対応が必要な方もプライベートスペースを確保できる十分な広さがあると思います。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	利用人数だけでなく、マンツーマンでの支援が必要な方の人数も踏まえてシフトの作成を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・利用者さんの特性に応じた環境設定を行っている。(パーテーションで個室を作る、クールダウンスペースを作るなど) ・提示物や家具の配置など、構造化を意識したものになっていると思います。 ・意思の表出で、写真カードを使用している	入室してからすぐ靴箱、荷物入れがある為、動線的に入室してからの片付けがすぐ出来るようにしているが、手洗い場が遠いので、児童によっては声かけが必要な場合がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・余暇活動の場所、課題作業に取り組む場所など活動に合わせた場所の工夫を行っている。 ・毎日可能な限り清掃している。大部屋になっている為、パーテーションなどを使用し、プライベート空間を作っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・パーテーションを活用したり、クールダウンスペースを作ったりしている。 ・不穏対応ができる個別スペースや、休憩をとれるマット、布団、まくらなども設置しています。 ・個別の部屋はない為、送迎車に移動している ・パーテーションなどを使用し、プライベート空間を作れるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		・毎日支援会議をしている ・支援会議の際に意見を伝えるようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・支援会議で話し合いをしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・毎日会議を開催し、意見を出し合えるようになっています。 ・支援会議への参加や、Slackにて情報共有している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4	経済的な問題で第三者評価機関に依頼はできていませんが、もし第三者評価を受けるなら、という視点を持って日々業務にあたっています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		担当者会議以外にも、日々LINEでのやり取りやお送りの際にニーズの確認を行なっています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		・支援会議で個別支援計画についての話し合いもやっている。 ・支援会議を行い、職員みんなで考えたものを個別支援計画作成者が反映できるようにしています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援会議で毎日確認を行なっています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	初回のアセスメントに加え、変化後のアセスメントも日々行なっています。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			活動の幅を広げる視点を持つよう意識しています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			・毎日支援会議を行い、支援の内容を話し合っている。また、人員配置の作成も行っている。 ・毎日支援会議を行い、その日実行する支援について話しています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1		・スラックを活用し、支援の振り返りを行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			言語での表出がない方でも、意思の表出や選択ができるよう、カードや現物などの提示を行なっています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			なんらかの事情で保護者と連絡がつかない場合には、学校にもご協力をいただき利用ができるよう努めています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3		・希望がある方は積極的に外出し、地域の方々に接する機会を設けています。 ・児童クラブや児童館との交流はないが、当事業所の児童が公園などに行った際に、地域のこどもたちと交流を深めている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			サービス提供記録やお送りの際の引き継ぎ、LINE等でお伝えをしています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1		定期的に保護者会を実施し、研修を行なっています。予定が合わず参加できなかった方からお問い合わせがあった際には資料をお渡ししています。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		以前お伺いしていた意向からお考えが変わることもあるため、お知らせいただいた情報を記録に残し、その都度更新しています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		モニタリングや計画更新時期でない場合でも、必要があれば臨時の会議を行なっています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		保護者から苦情があった場合でも、子どもの主体性を奪わない視点や、子どもの最善の利益に繋げる視点を持って対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	1		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報が記載されてあるものは全て鍵付きキャビネットに保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1		各種マニュアルの周知の徹底、各種訓練の充実に努めます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	医師の指示書はないが、昼食やおやつ購入時、アレルギー物質が極力入っていない商品を購入するように努めている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	2		安全計画の周知を徹底してまいります。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2		安全計画の周知を徹底してまいります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	1	ヒヤリハット報告書への記入、共有、全体での検討を行なっている。	認知していない職員が1名いることを踏まえ、再度ヒヤリハット報告書の活用について周知し、全体で意識を高められるよう努めます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	1	研修に加え、日々の対応についても職員同士がお互いに意識、指摘し合える環境をつくっている。	研修が十分でないと感じている職員が1名いることを踏まえ、研修内容を見直し、より実践に繋がる研修ができるよう努めます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				